

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	1473300182
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会
事業所名	社会福祉法人 ふじ寿か会 高齢者グループホームことぶきの里
訪問調査日	平成20年10月8日
評価確定日	平成20年10月30日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473300182号
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会
事業所名	高齢者グループホーム ことぶきの里
所在地	横浜市緑区北八朔町 1856番地 (電話) 045-932-1116

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 15日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 9年 1月 28日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	13人	常勤 1人	非常勤 12人	常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	(新築木造平屋)造り
	1階建ての (1)階 ~ (1)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	62,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 119,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (9月15日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		名	要介護2		3名	
要介護3		2名	要介護4		1名	
要介護5		3名	要支援2		名	
年齢	平均	86歳	最低	69歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たちばな台病院、地挽歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄りのバス停から徒歩で10分程度、途中から林道を思わせる小路の行き着く先の左手に、当ホームはあります。ホームの敷地内には、障がい者のグループホームと当法人運営で造りも同じ、「ふじの里」が隣接しています。2階建、2ユニットの高齢者グループホームが主流になっている現在、平成9年1月に開所の当ホームは、他の3つのホーム同様に、法人の基本設計である新築木造平屋1ユニットの少人数で家庭的なホームです。
「何でも一緒にやる」という理念の下、喜怒哀楽を利用者と共にし、きめ細かいケアプランの説明、受診結果や暮らしぶりの丁寧な家族への報告などが利用者及び家族に安全・安心感と信頼を与えています。そして、事務の合理化を図り、その分、少しでも利用者との関わりを持つようとする隠れた努力も、満足感を与える大きな力となっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、特に指摘される改善課題はありませんでした。これとは別に、昨今、何かと話題となっている「食の安全」に関連して、区の食品衛生担当部署の指導により、「温度管理記録」を導入して、夏場の新鮮野菜の保管方法や冷蔵庫内の食材管理を徹底して、食中毒防止を図る取り組みをしています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新人の職員を始めとして、今回も全職員で自己評価に臨みました。「何が問われているのか」、作業を進める中で、職員の外部評価の意義の理解も回を追う毎に深まっています。また、評価の結果を受けて、改善に取組むだけでなく、家族や外部の人達の目に触れるように、報告書は目に付き易い場所に掲示されています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年8月にスタートし、同一法人運営で隣接する「ふじの里」との合同による、運営推進会議も通算4回目を迎えました。参加メンバーは、利用者の家族、自治会の会長、民生委員の経験がある保健活動推進委員、地域包括支援センター職員、そして当ホームの管理者及び職員によって構成されています。会議の内容は、ホームの活動状況報告が中心となっていますが、花見の見所スポットのミニ情報が寄せられたり、当ホームだけでは出来ない、災害時の協力を要請する格好の場となっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会における介護計画の丁寧な説明や、かかりつけ医の受診結果の報告が家族の安心を生み出しています。それに加えて、ちょっとした意見でも耳を傾けて、すぐに対応するホームの姿勢が、問題を大きくせずに、小さな芽の状態のうちに解決しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>普段の近隣への散歩や買物、自治会行事の積極的な参加など、地域住民との交流機会が地域との連携の下地となっています。また、運営推進会議の構成メンバーである自治会会長が老人会にも関与していることもあり、地元「山下地域支え合いの会」との関係構築が出来ています。その他、小学校の生徒達との交流を契機に「子供110番の家」の委嘱を受けたり、地域住民に向けた「介護教室」を開催するなど、地域の一員としての役割を果たし、地域支え合いの一翼を担っています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活がホームの中で自己完結することなく、ホームでは見られない表情を出してもらう為にも、地域に向けての積極的な支援を行っています。利用者と共に「何でも一緒にやろう」という理念がこの行動を支えています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の散歩や買物、趣味の活動、そして介助における姿勢まで、理念が浸透しています。日々の支援に疑問を感じた時、理念に立ち返り、職員間で解決に向けた話し合いが行われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り大会や運動会など、自治会の行事の参加を始めとして、近隣の障がい者作業所のフェスティバルにも参加し、積極的に交流を深めています。また、小学校の生徒の訪問やホームの見学を積極的に受け入れるなど、開放的な方針もとしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の蓄積された経験を元に、評価の意義の理解はもとより、これを活用していこうとする姿勢が見られます。新人の職員に至るまで自己評価に全職員が参加し、何が問われているのか、気付きの機会にもなっています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当法人運営で隣接する「ふじの里」との合同で、昨年の夏にスタートした会議も通算4回を数えました。活動状況報告が中心となっていますが、グループホームの理解も深まってきています。外出先として、耳寄りな見所スポットの情報も入っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市グループホーム連絡会や緑区ブロック会を通じて、行政の保健福祉サービス課 高齢者支援担当者との顔の見える関係にあり、共通の目標であるサービスの質の向上に取り組んでいます。また、利用者との関係のあるケースワーカーとも連携しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人が運営する4つのグループホーム合同で発行する、スナップ写真入りの「里だより」が家族の好評を得ています。また、家族の面会の際には、外出時の写真を見てもらいながら、利用者一人ひとりの暮らしぶりを丁寧に伝えています		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大きな問題でないにせよ、家族のちょっとした意見でも耳を傾けるようにしています。課題はケアカンファレンスなどの場で職員間の話し合いが持たれ、即刻、対応できる態勢ができています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ない事情での異動・離職があったにせよ、もとも個々の利用者に対する職員担当制を採用していない為、利用者への大きなダメージは防いでいます。それでも、影響が出ると予想される利用者に対しては、事前にきめ細かな配慮をして不穩の防止に努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキル・アップを図る為、勤務シフトの時間的配慮、また、交通費の支給など経済的な支援も行っています。年間を通じた研修計画が立てられ、それに従って職員は研修に臨み、研修報告を実施するなどして、その成果を職員間で共有できるようにしています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修会を通じて同業者との交流を深める他、横浜市グループホーム連絡会が実施する現場研修に積極的に参加しています。他法人が運営するグループホームとの、職員交換研修で交流を図ると同時に、他施設の長所や自分の施設の優れている点に気付く、学びの場ともなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>認知症の方の介護は、「口出すな」「手を出すな」「目を離すな」を基本姿勢として実践しています。ややもするとそうしたくなるのを抑えて、利用者の潜在能力を見定める為にそうしています。また、そうすることによって適切なサービスを行い、馴染んでいける暮らしへと結びつけています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「何でも一緒にやろう」の理念を合言葉に、利用者を介護の対象者にすることなく、喜怒哀楽を共にすることが出来ています。そうした中、日常生活における畳敷きの部屋の掃除の仕方、料理の味付けなど、生活の知恵だけでなく、難しい漢字や花の名前を学んだりしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が日ごろのケアを通じて聞き取り、個別ケアノートや日誌等に、利用者の願い、支援してほしい内容や嬉しい事、楽しい事を含めて記載し、共有しています。聞き取り困難な場合は家族から聞いたり、利用者の行動を良く観察して判断しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は個別に担当職員を決めています。センター方式のアセスメントを行い、グループ討議を経た後、3ヶ月に1度全職員でケアプランカンファレンスを行い、作成されています。また医師や看護師の排便コントロール等の指示や指導及び家族からの要望等も含めて介護計画に反映しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、毎月のカンファレンスでモニタリングを行い見直し他、状況が大きく変わった場合には随時見直しを行っています。さらに、3ヶ月に一度は再アセスメントを行って、定期的に見直し、新たな介護計画が作成されています。家族へは、3ヶ月毎の家族会開催時に説明して配布しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームと、かかりつけ医や訪問看護師との交流・連携により、突発的な受診の機会も少なくなっています。緊急時や、家族での対応が出来ない場合には、ホーム側で受診支援を行ったり、利用者の要望により、墓参りの支援を行うこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、利用者の希望のかかりつけ医と、必要に応じた受診支援をしています。往診医とは、「入居者往診時診察要望票」を通じて連携し、診察確認事項を記載してもらい、医療情報を共有しています。受診結果については、家族に報告をしています。要望があれば、歯科医師の往診も依頼しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者が重度化した場合の指針」が作成されており、説明、相談を行っています。実際に重度化した場合には、ホーム側で「できる事、できない事」を含めて、往診医や家族、職員間で話し合っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時や実習生の受入時には誓約書の提出を義務付けています。個人情報事務室に保管し施錠しています。個別記録等の記載の際も、利用者への目配りを行っており、排泄誘導もさりげなく行われています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望により、入居前から通っていたカルチャースクールや体操教室に、ホーム側の支援で続けて通われている方もいます。その他、居室で編み物をされる方や簡単な計算ドリル等、それぞれの希望に応じて支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2、3度利用者と共に、買い物に行き、好みの料理等のリクエストにも応じています。利用者は、食事の下ごしらえや配膳、下膳などを選択しながら行っています。外食の機会や、手作りのお節料理等行事食のバリエーションは豊富です。職員は利用者と同じテーブルで同じ食事をしながら、さりげなく介助しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は一人ひとり、毎日行われています。時間も午後の2時半から6時の間で行われており、職員の体制も整えられています。拒否がある場合には、介助者を交代したり、体調や希望により、シャワー浴や足浴、清拭等もおこなっています。菖蒲湯やゆず湯等の日もあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくりカレンダーをめくったり、家庭菜園の水遣りや収穫をする人、洗濯物のたたみや掃除機・雑巾がけ等の希望を聞きながら支援をしています。甘い物が食べたいとかファーストフード店に行きたい等の希望にも応えています。東京タワーに出掛けた時は、中華バイキングなども楽しみました。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「買い物・散歩日誌」があり、天気の良い日には、山下小学校や第一公園、鶴見川や恩田川への散歩や買い物、季節のお花見等のドライブにも出かけています。法人内の合同の旅行でテーマパーク等にも出かけました。積極的に気分転換の機会や活動意欲の向上を図っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠されていません。玄関の開閉時にチャイムが鳴る仕組みになっており、利用者が出て行った場合には、職員がこっそり、同行しています。以前、「山下町へ行きたい。」と度々訴えのある利用者に対して、職員が電車に乗って同行するなど、利用者の気持ちにそった支援を行っています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練計画が作成されており、年4回利用者も交えた避難訓練が行われています。その他、消防署立会いの下、合同避難訓練が行われています。運営推進会議を通じて自治会等に協力要請もしています。さらに、独自で業者委託による、法人内連絡システムが整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、日勤帯、夜勤帯に分かれて日誌でチェックされ、個人記録にも記載されています。水分は飲み水を、いつも目の前に置いて常に気を配っています。尿量や回数が少ない場合には、個別にジュースやヨーグルトを摂ってもらう等配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内はバリアフリーで、天井も高く、廊下も広く、ゆったりしています。壁は風景画や静物画、職員お手製の品等で飾られており清潔で家庭的な雰囲気です。リビングは和紙による間接照明で採光しており、室外には各部屋を繋ぐウッドデッキもあります。利用者は台所の様子を感じながらテーブルやソファ等、思いおmoiの場所でくつろいでいます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は8帖の広さで、畳の部屋やフローリングの部屋もあります。部屋には、テレビや仏壇や家族の写真、趣味の品等も飾られています。タンスやテーブル等馴染みの品が持ち込まれており、1日毎に職員が清掃を支援しており、利用者は居心地良く過ごしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 ふじ寿か会 高齢者グループホーム ことぶきの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	〒226-0021 神奈川県横浜市緑区北八朔町1856番地
記入者名 (管理者)	内田 介二
記入日	平成 20 年 9 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・職員と話し合い、理念をつくりあげ、再度見直しをしている。 ・職員の入職時等に説明し、日々取り組んでいる。 ・事務所に掲示し、常に確認出来る様にしている。 ・ケアカンファレンスや日々の申送り等で、内容等の確認をしている。		・引き続き、常に入居者の満足度を考える様に、取り組んでいきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念の共有を出来る様に、事務所に掲示している。 ・ケアカンファレンスや申送り等で、日々確認し取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・各職員が見学者や面会者に、来里時等で話しをしている。 ・日々の行事等の写真を、見ていただいて説明等をしている。 ・地域のサークル活動や教室等へ参加し、交流を持っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や外出時、近所の方々との挨拶や立ち話等をして交流をしている。 ・トイレを借りられる方々(小学生等)もいられる。 ・自治会の行事等にも、参加し交流をしている。 ・地域のPTAより、「子供110番の家」として依頼されている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会の行事等に参加し、交流している。 ・盆踊り大会、フェスティバル、運動会等に参加している。 ・見学等の希望の方々や、電話での問い合わせも行っている。 ・地域に受け入れられるホームとして、開所しました。		・もっと、地域の人々と交流することに努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカンファレンスや日々の業務等の中で、話し合う事もある。 ・研修会等に参加し、役立つ事柄を学び、取り組んでいる。 ・地域の方々の見学等の受入れを、実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、もっと多くの方々に、認知症を理解していただきたい。 ・地域の貢献について、さらに努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が自己評価を行い、まとめた後再度話し合い、外部評価に望んでいる。 ・外部評価の結果を事務所内等に掲示し、各職員が見直しをしている。また、見学者や家族様等に見ていただいている。 ・自己評価、外部評価等をフィードバックし、改善に取り組んでいる。 		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね、2ヶ月に1度実施している。 ・活動状況報告を行い、「引き続き活発な活動を行って下さい。」との事でした。 ・今後も、自治会や地域等との行事の回覧板やお知らせをいただき、参加して行きたいです。 		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市GH連絡会や緑区ブロック会等を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいます。 ・神奈川県や横浜市、緑区、その他機関等の研修会に職員が参加し、質の確保・向上に取り組んでいます。 		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加し、参加者にレポートや報告、資料等の配布にて、ケアカンファレンス等で報告、発表等をしています。 ・状況に応じて、家族様等へ提案をしたり、資料等を配布しています。 		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の変化(アザ、腫れ、赤み等)に注意を払い、報告等を行い、職員同士、気を付けている。 ・研修会に参加し、参加者にレポートや報告、資料等の配布にて、ケアカンファレンス等で報告、発表等をしています。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入職時は、慣れるまでトレーニング期間としています。 ・各職員は段階的に、研修会へ参加していただき、サービスの質の向上に努めている。 ・法人内外、神奈川県、横浜市、緑区、一般機関等の研修会にも積極的に参加している。 	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市GH連絡会の現場(相互交換)研修に参加し、他のホームでの実際の業務を体験し、ホームの質やサービス向上等に努めている。 ・法人内外、神奈川県、横浜市、緑区、一般機関等の研修会にも積極的に参加している。 	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、入居者の方へ目を向けられる様に業務内容の改善や環境づくり等に取り組んでいる。 ・業務の変更や職員の報告、連絡、相談等には早目に対応を行っている。 	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員を段階的に、研修会へ受講していただいている。また、責任感を持てる立場で、業務等を行っています。 ・各職員が、「初心忘れべからず」を念頭に置き、互いに切磋琢磨しています。 ・向上心を持てる環境づくりを、心掛けています。 	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・求めていること等を最大限、本人から聴き、対応をしています。また、補足や不足面は家族様等から聴き、職員間で共有し受けとめる努力をしています。 ・職員は、入居者の声を正確に伝える様に、日誌や個別ケアノート、連絡帳等を活用し努力している。 	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前、見学、面接等で十分に説明や相談を行い、安心して入居していただく様にしています。 ・また、入居後の質問や不安等も、その都度尋ねていただき、安心していただく様に心掛けています。 ・家族様が来里時、話しや質問等に答えている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた時に、GHの事を十分に説明を行います。また、その方に適したサービスがあれば、話しをしています。 ・本人や家族様が、考えられている他のサービス等も紹介しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前、見学、面接等で十分に説明を行い、GHのを雰囲気体験していただき、安心して入居していただく様に支援しています。 ・他の入居者の入居当時の話し等をし、その方に合った説明をし支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・「何でも一緒に行く」を基本と考えています。 ・人生の先輩として、その時を大切に前向きに考え、多くを学んでいます。 ・ホーム内の生活や外出等で、共に人生観を学んでいる、と思います。 ・一つの作業等を、一緒に行い学びあっています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・基本的には、家族様の声に、我々職員はかなわないと考え、支援しています。 ・面会や家族会等の時、その他必要に応じて電話等で報告、連絡、相談等を行っている。		・引き続き、もっと多くの事柄について、家族様等との情報交換をしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・我々職員との関係より、家族と言う深い絆が存在していると考え、支援している。 ・面会や家族会の時等で、ホームであった事柄や写真等で話しや報告等の支援をしている。 ・家族様(孫等)の名前を覚え、話題を膨らます様に支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・スケッチブック等を活用し、書き物や読み物等を行っている。 ・年賀状や手紙等を書かれる方々に、送付等の支援を行っている。 ・入居前より実施していた、「ピース教室」や「体操教室」等も継続し実施している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・「共同生活」を考える上で、入居者同士の関わりが大変重要だと考えています。 ・孤立しない様に、サイドからフォローしています。 ・共通の趣味等に取り組んでいただき、意欲を触発し生活に活力を与える様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・家族様やその他の方々との関係等を最大限考慮し、必要に応じて対応しています。それを踏まえて、退居された方に会いに行ったりした事もあります。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人を中心に考え、家族様等と相談し、検討している。 ・一人一人の希望や意向を把握し、日誌や個別ケアノート、連絡帳等を活用し職員同士共有に努めている。 ・出来るだけ、本人の意思を尊重し支援をしている。		・一層、時間を掛け、取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前や面接等で、以前の生活状況等の暮らし方を聞き、把握に努めている。 ・家族様等が、作成したアセスメントシート等を最大限に活用している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々、一人一人の様子観察をし、日誌や個別ケアノート、連絡帳等を活用し、アセスメントやケアプランへの反映に努めている。 ・各職員が、個別ケアノート等に記入し、情報の共有が出来る様に努めている。 ・職員同士で意見交換し、理解する様に努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族様等に、連絡や報告、相談をし介護計画へ反映して作成している。 ・基本は、3ヶ月に1回ケアプランの見直しをしますが、状況に応じて見直しを行っている。 ・家族様等を含め、本人を中心にしたチームワークと考えている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・本人を中心に現状に即した計画を、常に考え作成している。 ・基本は、3ヶ月に1回ケアプランの見直しをしますが、状況に応じて見直しを行っている。 ・家族様等を含め、本人を中心にしたチームワークと考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、一人一人の様子観察をし、日誌や個別ケアノート、連絡帳等を活用し、アセスメントやケアプランへの反映に努めている。 ・各職員が、個別ケアノート等に記入し、情報の共有が出来る様にしている。 ・職員同士で意見交換し、理解する様に努めている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、本人や家族様等を含め希望する事柄は、支援をしている。 ・お墓参りや観劇等の希望に対応している。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が、希望されるボランティア(コーラス、踊り、体操等)を実施している。 		・より多くの機関との協力体制に、取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・他のサービスの利用は難しいので、社会資源としてボランティア等を活用し支援をしている。また、必要に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い等を行っている。 		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的なケアマネジメント等として、緑区役所や地域包括支援センター等と協働している。 		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人及び家族様等と話し合い、医療(往診やかかりつけ医)と連携し、希望に沿う支援をしている。また家族様等に、報告や連絡、相談等を行っている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・本人及び家族様等と話し合い、医療(往診やかかりつけ医)と連携し、希望に沿う支援をしている。		・更なる努力をし、取り組んでいきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・往診の医師や看護師と、常に連絡や相談、報告が取れる体制を取っている。		・更なる努力をし、取り組んでいきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・往診医等と予想される事柄を相談している。 ・入院した場合は、家族様等を含め本人の面会や主治医との相談等で状況を把握し、その後の対応を検討している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・家族様等と入居前、見学、面接等で重度化や終末期等について十分に説明や相談等を行い、安心して入居していただく様にしています。 ・また入居と同時に、特養の申込みも説明している。家族様等も重度化や終末期の時期の対応を、大変気にされている。また、職員へ報告し、情報の共有に努めている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・状況で、事業所の「できること・できないこと」は、家族様や往診医等を含め、職員と話し合っている。		・再度、ターミナルケア(終末期、重度化)等の前に、研修を全員受けられる様に取り組んでいきたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・家族及び本人に関わるケア関係者等へ、十分な話し合いや情報交換や提供等に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・一人一人のプライバシーの尊重を大切にし、記録等の書類は事務所にて管理している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・本人が、決定出来る様な声掛けや目線、ジェスチャー(しぐさ)等を行い、納得して暮らせる様に支援をしている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・各入居者のペースでの生活を心掛け、入居者主体として支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容、美容等は本人の希望の店へ同行している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者と職員と一緒に準備や食事、配膳、片付け等の支援をしている。 ・また、希望される所(店)等に、出掛け外食等も支援している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・嗜好品等、本人が楽しめる様に支援している。 ・買い物時、食べたい物を聞き、購入をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・可能な限り、自立や自力で行なっていただく様に支援している。 ・全職員、日誌で排泄パターンを把握している。 ・アセスメントし、パットやおむつの使用の状況を見極め支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的に、毎日入浴時間を設け、状況や状態等で一人一人の入浴のタイミングに合わせて支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日誌の時系列表を活用し、把握に努めている ・各自の習慣に応じて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・本人が希望する外出、外食等を行っている。 ・編み物、台所仕事、散歩、洗濯物たたみ等一人一人のやりどころをアセスメントし支援している。		・可能な限り、一人一人の好みに合わせた事柄に支援、取り組んで行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外出時、お金の支払いの支援を行っている。 ・毛糸、身の回り品、本等の購入。 ・ただし、認知症のため難しい局面が多い。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物や散歩等への声掛けを行っている。 ・外出等の意向を聞いて支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・お墓参り等、本人の希望先等の外出等の支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の訴えや希望等で、電話や手紙等を支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・基本的に、面会時間を決めていません。 ・家族様等が、気軽に来里していただける様に、話しをしている。 ・面会時、必ずお茶だしと、近況報告等をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修会等に参加し、ケアカンファレンス等で報告をしている。 ・身体拘束がないケアに、取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・基本的に、玄関の鍵を開けている。 ・玄関の開閉時に、チャイムが鳴り、在宅(一般家庭)に近い状態に対応をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日々の日誌の時系列表を参考にし、入居者の所在や様子等の把握に努めて、安全な生活に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・本人や家族様等に、必要な物品等を確認し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・研修会等に参加し、ケアカンファレンスや申送り、連絡帳等で報告し情報の共有に努めている。 ・一人一人の様子観察等を行い、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や講習会等に参加している。 緊急対応の資料を、事務所やフロアーに掲示している。 		<ul style="list-style-type: none"> 訓練の機会を増やせる様に、取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等へお願いしています。 地域の方々も、大変協力的で声を掛けて下さる。 		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、家族様等へ連絡や報告、相談等を行っている。 面会や家族会等でも、話し合っている。 		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> 日誌や個別ケアノート、申送り、連絡帳等で、情報の共有を図っている。 申送りでは、特記事項として情報を確実に伝えている。 バイタルチェックを毎日実施し、常に様子観察等を行っている。 		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 事務所にある薬の処方せん(説明)ファイルを、各職員が見返している。 不明な場合は、ホーム長へ直ぐに確認を行っている。 		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 薬(下剤)に頼るのではなく、野菜やプルーンやコーヒー、牛乳、飲むヨーグルト等で工夫している。 基本的に、一般的な方法で行う様に取り組んでいる。 		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、歯磨きへの誘導を実施。 基本的に、本人のペースに合わせる様に支援している。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・日誌にて食事量等を、日々把握し支援している。		・柔らかい物ばかり好む方に対して、そればかりで対応したら、アゴや歯ぐきが弱ってしまわないか、慎重に組みたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・日々手洗いの励行、熱湯消毒、まな板の日光消毒、布巾の消毒等を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・日々職員全員で気を付けて、支援をしている。 ・消毒等実施している。 ・冷蔵庫内の温度管理記録の実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・季節ごとに、花壇等の整備を行っている。 ・玄関は、ホームの顔であると心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・音に配慮し、ホーム全体が生活感のある様にしている。 ・入居者の方々の声や生活の音等が、響き渡る様に支援している。 ・余分な照明への配慮を行っている。 ・自然の風が入り込み、季節感や生活感等のある支援を工夫している。		・引き続き、廊下や玄関に、多くの季節の花や絵画等を飾る事に取り組んでいきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・個々人が、決まった席に座っている。 ・ホーム内、各場所に椅子等を置き、気軽に座れる様に工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、本人や家族様等の意向を最大限に反映し、本人にとって使い勝手のいい様に工夫し支援している。 ・本人や家族様等に、家具等は馴染みの物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせる様に工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・自然の風が入り込み、季節感や生活感等のある支援を行っている。 ・居室等の見回りをこまめに行い、換気をしている。 ・職員が肌で、温度等の確認を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム全体がバリアフリーで、車椅子等が通れる廊下の広さや手すりの配慮、大きな扉であり、玄関入口までスロープにしてあり、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・一人一人のアセスメントを大切に、現在「出来ること、出来ないこと」を見極め、最大限対応し自立して暮らせるように工夫している。		・引き続き、入居者が落ち着きがない時や、何か失敗をしても本人が安心していただける様な環境や、声掛けをもっと増やせる様に取り組んでいきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関回り等に、季節の植物等を植え、四季折々に楽しんでいただける様に、配慮している。 ・ウッドデッキを活用し、日光浴等の支援を行っている。また、茶話会や食事会等も行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 日誌や報告書、作成資料等の事務を軽減し、入居者との関わり、見守りやケア等の時間を出来るだけ多くしている。
- ・ 散歩や外出行事等を多くし、入居者に外の空気を感じていただき、ホーム以外での「顔」を観れる様に努めている。
- ・ 見守りや声掛けによる残存能力の維持向上と、コミュニケーションや共に作業を行うことで意思の疎通を図り、穏やかな関係を築き、要望を出来るだけくみ取り実現する工夫をしているという点で、家族（家庭）により近い雰囲気（入居者の心に寄り添う）をもったサービスの実現に力を入れている。
- ・ 可能な限り、入居者一人一人に合わせた生活を、常に心掛けています。
- ・ 見守り、声掛け、接する態度等、その都度対応を心掛けています。
- ・ 認知症介護の基本である、「口出すな！」「手を出すな！」「目を離すな！」を常に再確認をしている。